

アスパラガス「ハルキタル」2年生株の休眠特性

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科

1 部門名

野菜 - アスパラガス - 品種、生理・生態、作型・栽培型

2 担当者

木村善明・緑川弥寿彦

3 要旨

アスパラガスは、秋から冬にかけて休眠現象(加温しても萌芽しにくいなどの現象)が見られ、休眠から覚醒するためには気温5℃以下の低温に一定期間遭遇する必要があるといわれている。福島県オリジナル品種「ハルキタル」を用いたハウス半促成長期どり栽培において、春の被覆開始時期を明らかにするため、定植2年目の株の休眠現象、休眠覚醒に必要な低温遭遇時間について調査した。

- (1) ポットに定植した「ハルキタル」2年生株の、加温を始めてから最初に萌芽するまでに必要な日数は、加温前に低温(気温5℃以下)に400時間、500時間あたった株よりも800時間あたった株の方が短くなる傾向が見られる。同様に、「ウェルカム」2年生株でも、低温にあたった時間が長くなるに伴い、萌芽までの期間が短くなる傾向が見られる。
- (2) ポットに定植した「ハルキタル」2年生株の、加温を始めてから一定期間に萌芽する茎数は、加温前に低温に800時間あたった株で早く増加し、期間全体の茎数も多くなる。「ウェルカム」2年生株については、低温に500時間及び800時間あたった株で同様の傾向が見られる(図1)。
- (3) 「ハルキタル」2年生株は、「ウェルカム」2年生株よりも休眠覚醒が遅く、低温に800時間程度遭遇する必要がある。なお、郡山市においては、1月上中旬頃が休眠覚醒期に相当する。

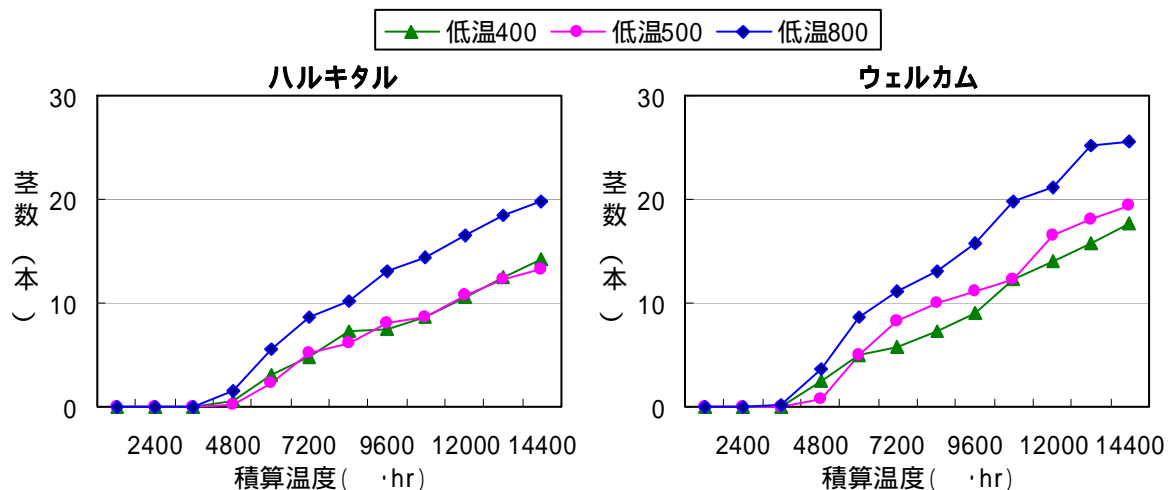


図1 加温開始後の萌芽茎数の推移

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)